

# 有喜川水系河川整備基本方針

平成15年5月

長 崎 県

# 有喜川水系河川整備基本方針

## 目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
( 1 ) 有喜川流域の概要 .....	1
( 2 ) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	4
1 ) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 .....	4
2 ) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項 .....	4
3 ) 河川の維持管理に関する事項 .....	4
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 .....	5
( 1 ) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	5
( 2 ) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	5
( 3 ) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に 係る川幅に関する事項 .....	6
( 4 ) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために 必要な流量に関する事項 .....	6

< 参考図 >

有喜川水系流域概要図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 有喜川流域の概要

有喜川は、長崎県諫早市の南部に位置する流域面積約 5.7km<sup>2</sup>、流路延長約 2.7km の二級河川です。その源を標高 150m 程度の山々に発して、流域の中心部を東に流れ、橋湾に注いでいます。

流域の気候は、温暖な西海型気候区に属しており、年平均気温は約 17℃ です。また、年平均降水量は、2,100mm 程度ですが、梅雨や台風の影響を受けるため、6月から9月の降水量が多くなっています。

流域の大半はシイ・カシ萌芽林を中心とした山地で占められていますが、中下流部の川沿いには平地がひろがっており、中流部は田畑、下流部は宅地として利用され、流域内人口約 4,500 人のほとんどが下流部に集中しています。なかでも、橋湾に面した河口部の有喜地区は、漁港を中心とした人々の営みを感じさせる港町となっています。

流域には、有喜貝塚、上原遺跡など縄文時代から弥生時代にかけての貝塚や遺跡が点在しているほか、宇木城址が丘陵地にあり、古くから当流域に生活の営みがあったことを示しています。また、有喜川下流域を横断するように九州自然歩道が通っており、人々に利用されています。

有喜川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は以下に示すとおりです。

#### 治水の概要

有喜川は、川幅が狭く流下能力が低いことから過去幾度となく台風や大雨による災害を引き起こしてきました。

主な洪水としては、昭和 55 年 7 月、昭和 56 年 6 月、昭和 57 年 7 月、平成 2 年 7 月がありますが、中でも昭和 56 年 6 月洪水の際には、浸水面積 36.4ha、床上浸水 33 戸、床下浸水 70 戸と、中下流の平野部のほぼ全域が被害を被りました。

このような被害を受けて、有喜川では平成 5 年から河川改修に着手しており、現在、河口から有喜橋（河口からの距離約 0.2km）の改修が終わっていますが、有喜川全川にわたる洪水による被害を防止するまでには至っていないのが現状です。

## 利水の概要

有喜川の河川水は堰からの取水により周辺の水田約 12 ha の農業用水として利用されていますが、近年これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水被害は発生していません。

## 自然環境および河川利用状況

有喜川の上流部は、シイ・カシ萌芽林を中心とした山地が大部分を占めており、僅かな平地に集落や水田・畑があります。有喜川はその中を蛇行しながら流下しています。流れが速いことから、瀬となっている区間が多いものの、取水堰上流部の湛水区間に淵が形成されています。河川のほとんどの区間が石積みやコンクリート護岸であることから、生態系としての水域と陸域との繋がりはあまりありません。しかし、自然河岸となっている区間には、河道内の所々にツルヨシ群落が発生されており、水域と陸域との繋がりが見られます。また、取水堰上流部の湛水区間を主としてオイカワ、シマヨシノボリなどの魚類が確認できます。

中流部は、自然環境の観点から基準地点である山本橋を境界として、上流と下流に大きく分けられます。山本橋の上流は、両岸に水田・畑をみながら、住家が点在するなかを流下しています。川の勾配が上流部に比べて若干緩やかになっていることから、瀬の区間が多いながらも、自然に形成された淵が存在し、有喜川で最も自然度の高い地区となっています。この区間には、スダジイ、アラカシ、メダケなどの河畔林が存在し、コサギ、アオサギなどの鳥類の休息場となっています。また、水際には、モクズガニやテナガエビが生息し、河床が礫で構成された水域にはアユ、オイカワなどの魚類が生息しています。一方、山本橋の下流は、両岸にひろがる水田のなかを流下しており、一部にメダケを中心とした小さな河畔林が存在しています。川の勾配は上流区間に比べてさらに緩やかになり、瀬・淵が連続して見られます。ほとんどの区間が石積みやコンクリート護岸であるため、生態系としての水域と陸域との繋がりはあまりありませんが、河道内にはジュズダマ群落やミゾソバ群落が存在し、水際付近にはメダカ（環境省レッドデータブック：絶滅危惧類）やミナミテナガエビなどの魚類や底生生物が生息しています。また河床が礫および砂で構成された水域には、オイカワ、シマヨシノボリなどの魚類が生息しています。

下流部に入ると人家の占める割合が多くなり、有喜川は国道 251 号を横切ったのち人家密集地である有喜地区を貫流し橘湾に注いでいます。川の勾配は中流部に比べ一段と緩やかになり、河口から約 0.6 km までは感潮域になっています。国道

251号から下流の開港橋までは右岸側を中心に住家が密集しており、左岸側には水田が広がっています。開港橋の上流左岸にはメダケ林が自生しており、コサギやササゴイなどの鳥類の休息場となっています。河道内の植生は感潮域のためほとんどありませんが、僅かに形成された州にはジュズダマ群落が存在し、その水際はテナガエビなどの住みかとなっています。また河床が砂及び小礫で構成された水域には、ギンブナ、オイカワなどの淡水魚の他、ボラやハゼなど汽水域の魚類が生息しています。

有喜川における河川利用としては、全川を通して急勾配の石積みやコンクリート護岸となっているため、川へ近づけるような水辺が少ないことから、川辺の散策や生活道路として利用されている以外は川遊びや釣りなどの利用はあまり見られません。このようなことから、地域からの要望もあり、今後の河川整備においては、地域住民が川に親しめるような空間整備が望まれます。

水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けておらず、定期的な観測は行われていませんが、平成13年12月から平成14年3月にかけて行った観測では、中流の山本橋（河口から約1.2km上流）においてBODが平均2.3mg/l、河口から約1.7km地点で平均2.5mg/lとなっています。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

有喜川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画（諫早市基本計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ります。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

### 1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

有喜川においては、想定氾濫区域内の状況等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図ります。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるため、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施するとともに、ハザードマップ作成に向けた支援を行います。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や諫早市等関連する他行政機関との緊密な連携のもとに、合理的な水利用の促進等適正な水利用が図られるよう努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、コサギやアオサギなどの鳥類の休息場となっているスダジイ、アラカシ、メダケなどで覆われた河畔林の保全及び貴重種であるメダカ（環境省レッドデータブック：絶滅危惧 類）やミナミテナガエビなどの魚類・底生生物が生息するミゾソバ群落などの河道内植生の保全に努めるとともに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間の整備を図ります。

### 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

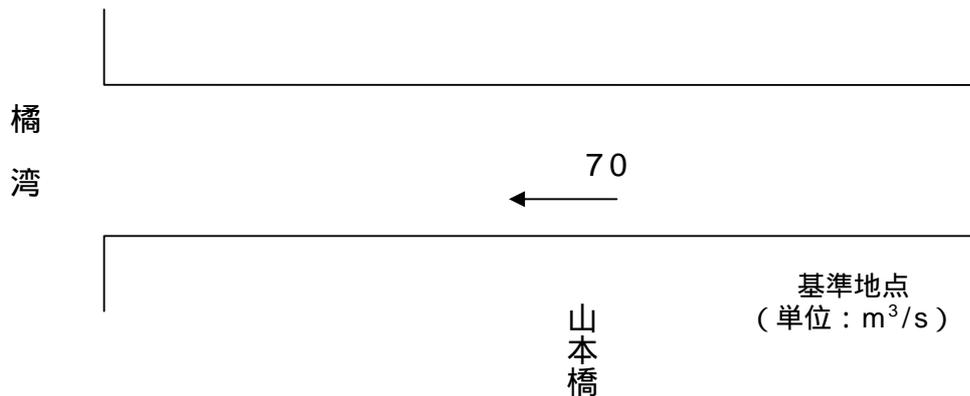
基本高水のピーク流量は、基準地点山本橋において  $70\text{m}^3/\text{s}$  と設定し、これを河道に配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位:  $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
有喜川	山本橋	70	-	70

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

有喜川における計画高水流量は、基準地点山本橋において  $70\text{m}^3/\text{s}$  とします。



有喜川計画流量配分図

( 3 ) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は次表に示すとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
有喜川	山本橋	1.20	+ 5.66	20	基準地点

( 注 ) T.P. : 東京湾中等潮位

( 4 ) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

有喜川の河川水は流域内の水田約 1 2 ha で農業用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、流量データの蓄積、水利用の実態把握等に関する調査検討を行います。

